

リメンバー新聞

74号

2015年7月31日

編集・発行
リメンバー名古屋自死遺族の会
http://will.obi.ne.jp/remember/remember_nagoya@yahoo.co.jp
FAX:020-4668-8925
郵便:〒460-0008
名古屋市中区栄4-16-24
メゾンオザワビルS150
リメンバー名古屋

9月27日(日) 於:岡崎げんき館 「リメンバーin岡崎」を開催

2010年12月に始めた岡崎市での自死遺族の「分かち合いの会」は、今回で6回目となりました。愛知県東部にお住まいの方からは、名古屋は遠方で行きづらいというお声を聞いています。また、近隣での開催がないことで、自死遺族の「分かち合いの会」というものの存在をご存じない方も多くいらっしゃるのではないかと思います。今回の岡崎の場が、少しでも遺族の方の支えの場になることを願っています。

日 時

2015年9月27日(日) 13:15-16:00
(13:00受付開始)

場 所

岡崎げんき館

愛知県岡崎市若宮町2丁目1-1

名鉄「東岡崎駅」北口 名鉄バス約12分 「岡崎げんき館前」
愛知環状鉄道「中岡崎駅」 まちバス約20分 「岡崎げんき館」

内 容

午後 13:15-16:00

「自死遺族の分かち合いの会」対象:自死遺族の方限定



10月11日 第回 若者自死遺族の集い

第1回若者自死遺族の集いから約9か月。あれから若者自死遺族の集いは、ユースの会へと名前が変わり、リメンバー名古屋の分科会になりました。そして、第2回となる今回は、場所を八事の櫻誓願寺に移しての開催となりました。お寺の長閑で安穏とした空間で喪失体験を分かち合うことも一つの試みではないかと考えたためです。

プログラムは前回同様、午前は喪失体験の分かち合いを行い、午後からは今までとこれからについて考えていくことを予定しています。これらのプログラムを通して、日常生活で感じる生きづらさ等の心の荷物を降ろし、少しでも軽くなれたらと考えています。

日 時

2015年10月11日(日) 10:00-16:30(予定) 300円(予定)

参 加 費

場 所

櫻 誓願寺 名古屋市昭和区滝川町47-1
地下鉄鶴舞線八事駅、いりなか駅より徒歩5分

内 容

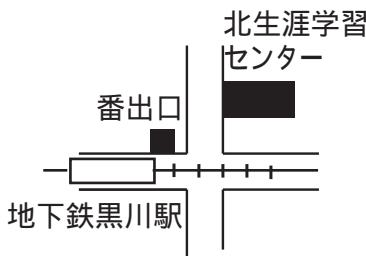
午前:喪失体験の分かち合い

午後:生きづらさの共有、これからを考える

次回の遺族会

第71回

8月2日(日)13:15から
名古屋北生涯学習センター
地下鉄名城線「黒川」下車
(4番出口)よりすぐ
参加費:500円



その次は…

第72回 10月の日曜日、会場は同じく北生涯学習センターを予定しています。8月の初めに決まります。

日程は、ホームページまたは、電話案内でご確認いただけます。

パソコンの方

<http://will.obi.ne.jp/remember/>
携帯電話の方

<http://www.will.obi.ne.jp/m/>
電話案内(録音でのご案内)

090-8544-9408

郵送先住所が 変更になりました

2015年1月より、郵送先住所が以下に変更になりました。

〒460-0008

愛知県名古屋市中区栄4-16-24
メゾンオザワビルS150
リメンバー名古屋

郵便物は受取までに14日以上かかる場合があります。お急ぎの場合などは、FAX:020-4668-8925、メール等をご利用ください。

連載 その理由 - 告白

羊のミケ

前回のリメンバーしんぶんに掲載したエッセイを送ったところ、一度直接会って話す運びになった。講義で使っている資料とお勧めの本を受け取り、そして、エッセイの感想を聞けるとのことだ。

震えるつま先。高鳴る鼓動。約束の日時。私は緊張しながら、待ち合わせ場所で先生を待っていた。すると、近くにいた女性が私の名前を尋ねてきた。その人こそが、先生だった。思っていた通り、優しく穏やかな雰囲気を醸し出している。一気に緊張は氷解した。何とも言えぬ安堵感のようなものが身を包んだことを今でも覚えている。

そこから私たちは教室に移動し、様々な話をした。講義ではどのような授業を展開しているのか。どの作家のどの本が好きか。そして、肝心のエッセイについて。

先生は手放して褒めてくれた。私はそのことが何よりも嬉しかった。私の想いの丈を全力でぶつけた文章だ。否定されてしまったら、私の思考延いては私の人格さえ否定されることにも繋がる。素直に文章を綴っていて良かったと心底思える瞬間だった。

そして、次の瞬間、私は自責に似た想いに駆られた。

先生に、このまま父のことを黙っていても良いのだろうか？

先生は私の想いを受け止めてくれた。先生は真摯に向き合ってくれているのに、それなのに、父の死を黙っているということは、私はきちんと先生に向き合っていることにはならないのではないか。騙しているとまではいかなくとも、少なくとも先生に私の文章観の全てを打ち明けたことにはならない。私にとって、執筆と死生観は切り離して考えること

はできない。だからこそ、きちんと言うべきだ。そもそも父の死は決して恥ずべきことではないはずだ。私は何も悪いことをしていないだから。でも、婆ちゃんは言っていたじゃないか。父のことを話したらみんな離れていく。絶対に言ってはいけないと。先生だって、エッセイを読んだのだから辛い過去があったことくらい気が付いてる。それを敢えてカミングアウトする必要はないんじゃないのか。でも、黙っていることは先生への裏切りじゃないのか。せっかく忙しい中時間を割いて会ってくれて、こうして通常の授業外で個別指導まで引き受けてくれているのだから。いい先生だと思うからこそ、悪く思われたくない。父の死をこの先生が悪く思うだろうか。いや、きっと受け止めてくれる。でも、婆ちゃんは言ってた。みんな離れていくって。でも、この先生はきっと離れていかない。本当にそうだろうか。いや、でも、けど、

「先生」

頭の中に湧く数多の言葉たちを振り払うように口に出した。

「こちらに書かせていただいた通り、僕が文章を書くことは死生観と密接な関係にあります」

頷きながら私の方をまっすぐに見ていた。

その時の私を駆り立てていたのは、自責の念ではなかった。

『この人に話したい』『この人に聞いてもらいたい』

ただ、素直にそれだけの気持ちだった。

私は、遺族会で話すのと何ら変わらず、先生に自身の生い立ちについて話を始めた。

（続く）

新聞郵送をご希望の方へ

1月～6月末までのお申し込み(前期)…1000円 もしくは 82円切手(80円切手も可)13枚

7月～12月末までのお申し込み(後期)…500円 もしくは 82円切手(80円切手も可)7枚

お申込みは、郵便番号・住所・氏名を記入の上ご送金いただくか、切手をご郵送ください。遺族会の当日、受付でお支払いいただいても結構です。

スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。詳しくはお問い合わせください。

そつとその意地を私の心（ノート）にすてください。苦しむあなたをみているのがつらいのです。その文字に私の心は打ち抜かれてしまう。苦しむあなたをみているのがつらい。そうそれはまさしく言葉こそ違うが母が言つたことと同じ。瞬く間に、母の気持ち。父の気持ち。私がつられた庭を前にしてぼんやり想う。ほどなくすると、思出されたすべての人の気持ちを感じてしまう。しばし庵で佇む。廊下の敷居に腰を下ろし、今までの事を丁寧に手入考が止まり笹の擦れあい揺れる音、鳥の仲間を呼ぶ元気な鳴き声、数種類の苔の譲り合う生殖具合に目をみはり、太陽の日差しは大樹で遮りながらある一定量地面の植物に到達する。木漏れ日の輝きに目を奪われた。心地よい空間。

この空気が血流につて全身を駆け巡る。どれほど時間が過ぎたのか見当がつかないくらいだつた。一時間すぎていた。充分時間はある。ここへ来るために今は京都へ来たのだから。なにもどこにもここ以外予定入為に来ただから。想い出草ノートがあつた。四冊ありドキドキしながら表紙を開く。思いの丈を綴る想い出草ノート。人生いろいろあるこの人もある人も。でも何もないような平気なふりして仕事、学校生活、家庭生活、日常を生きているんだね。ノートにあれも書こう。これも書こうと思つて訪ねたけれど、文字にはまとまりがなく、まるで書きなぐつた日記のようだ。でもそれでいい。

そうこうしている内に三時間近く時は過ぎ、お腹がグロと鳴り昼時となつて、大海へと続く小川に流したい。そのままの道、目を閉じると川の流水音が耳に心地いい。私の黒い心、嫌な事、忘れない事、何もかも一滴残らずバケツにすくつた。でも何にも変わりない生活が、ここにある。でも何も変わつたなにも変りない生活が、ここにある。でも何も変わつてくれた、決意てくれた直指庵であつた。腹をくく

（投稿者 S）

次回「ディアレスト」のご案内

家族ではないけれど大切な人を自死で亡くされた方を対象に、2ヶ月に1回、遺族会「ディアレスト（Dearest）」が開催されています。

日時: 2015年9月6日（日）13:30-16:00

場所: 名古屋市中村生涯学習センター

地下鉄東山線「本陣」駅4番出口より徒歩5分

対象: 家族以外の大切な人（恋人・婚約者・パートナー・親友・同僚・上司・部下・先輩・後輩・先生・生徒、など）を自死（自殺）で亡くされた方

参加費: 500円

連絡先: the.dearest1@gmail.com
<http://dearest.heyay.jp>

次回「～こころの居場所～ AIC H自死遺族支援室」のご案内

以下のように開催されます。詳しくはホームページ等をご覧ください。

日時: 2015年9月19日（土）

13:30～15:30（開場13:15）

場所: 東桜会館 第一会議室

地下鉄新栄、高岳両駅から徒歩5分

参加費: 500円

連絡先: cocoroibasyo@yahoo.co.jp
090-4447-1840
水・木 15:00～20:00
日曜日 18:00～20:00
<http://cocoroibasyo.org/>

次回「いっぷくどころ」のご案内

さまざまな宗派の僧侶の方が集った「いのちに向き合う宗教者の会」により、自死遺族と宗教者による分ち合いの会「いっぷく処」が開催されます。平日での開催となります。

日時: 2015年9月29日（火）16:00-

場所: 真宗大谷派東別院本堂下大広間（東別院内）

地下鉄名城線「東別院」下車

連絡先: info@inochi.in
<http://inochi.in/>

近隣の自死遺族のわかつ合いの会

岐阜「千の風の会」…2015年9月20日（日）問い合わせ：岐阜県精神保健福祉センター 058-231-9774

浜松「浜松わかつあいの会」…2015年9月12日、10月10日 問い合わせ：浜松市精神保健福祉センター 053-457-2709

リメンバー文庫



新着本のご紹介

詩集 『青の額縁』 前田恵子 ¥1,000円

19歳で自死を図ったのが原因で32年間寝たきりのまま亡くなった妹さんへの思いが綴られた詩集です。

亡くなった年の 初夏に
盆踊りが大好きなあの子の為に
大好きだった色 水色と桃色の
浴衣と 帯と 巾着袋を 買ってあげた事

私が してあげた事は
ただ それだけ
たった それだけ

(「水色と桃色」より一部引用)



富山県の遺族会のご紹介

「ちいさな集い 悲しみに Sotto 虹」

LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーなど、性的マイノリティーの立場の方々）や発達障がい関連の方々、その他マイノリティの立場の方々の参加を歓迎している自死遺族会です。

偶数月の第2日曜日（原則）に富山県内で集いが開催されているほか、不定期にワークショップも開催されています。

<https://www.facebook.com/sottoniji>

自死遺族向け面接相談（無料）

愛知県精神保健福祉センター

要予約 052-962-5377 毎月第3木曜日 午後2時-3時30分

名古屋市精神保健福祉センターここらぼ

要予約 052-483-2095 每月第3火曜日 午前10時-12時

電話相談のご案内

自死遺族に限らない、幅広い窓口です。

あいちこころほっとライン365

愛知県精神保健福祉センター 毎日 9:00 ~ 16:30 052-951-2881

名古屋市こころの健康電話相談

名古屋市精神保健福祉センターここらぼ 月-金 12:45 ~ 16:45

052-483-2095

りめんばー

「夏の暑さが急に増し、蝉の声が一段と大きくなると、また命日がやってきます。」

そうこの欄に書いてから、また1年が過ぎました。

この1年を振り返ってみると、一番大きかった出来事は、芸術系の通信の大学をこの春卒業したことでしょう。大学を目指したことは、この欄に文章を書くことも同じのですが、自分の思いを誰かに聞いてもらいたい、誰かに「そうだね」って言ってもらいたいことだったように思います。

その叫びにも似た行為は、とてもエネルギーのいることでもあります。しかし、本当にエネルギーが必要なのは、いつか誰かが「そうだね」って言ってくれることを、期待し待ち続けることのように思います。

遺族の分かち合いの会では、これまでずいぶん「そうだね」って言ってもらいました。しかし、15年を経た自分の心は、少し複雑なものになりつつあるのを感じます。喪失感、自責だけでなく、自分自身の生き様への問い、この世への問い……さまざまなものが絡みあい、ほどけない塊のようになっているのを感じます。

寝苦しい夏の夜は、考えが深まるわけではなく、ただ苦しくエネルギーを消耗していく時間のように思えます。汗ばんだ体は、少しでも休まる形を見つけようと、何度も寝返りを打ちます。同じように暑かった15年前のあの夜、ほどけない塊を抱えた者は、誰にも「そうだね」と言ってもらえず、この世を去っていったのでしょう。休まる形を見つけることができないまま。（KN）